

2020 年度日本天文学会天文教育普及賞

【授賞者】 三島 和久（みしま かずひさ）

【活動名】 人工天体観測の市民向け予報を中心とした天文普及活動

三島和久氏はライフパーク倉敷・倉敷科学センターが開館した 1994 年より学芸員として、プラネタリウムや施設の天文台を通じて天文学の普及をおこなっている。流星の観測にも精力的に取り組み、三島氏が撮影した写真は SNS や全国の報道などで広く見ることができる。

三島氏は、スペースシャトルや国際宇宙ステーションなどを中心に、人工衛星の観察方法を一般の方にわかりやすく周知するホームページを 20 年以上つづけている。現在、インターネットを使って広く市民に星空を見上げようと呼びかける取り組みは各所で行われているが、三島氏は先駆者のひとりある。

近年、JAXA や NASA、大学等と共同で、公開天文台やアマチュア天文家による人工天体の地上観測が行われ、学術的な観点だけでなく、衛星や探査機による科学探査に対する教育普及という点でも成果が得られている。取り組みの中で、三島氏は人工天体の視位置や等級等の観測条件の検討と予報を積極的に行い、研究者と観測者を結ぶ貴重な役割を中心的に果たしている。また、三島氏自身も観測に参加し、その成果を施設のホームページや SNS 等で情報発信することで、市民にとって人工天体の観測がより身近なものとなる為の役割も果たしてきた。

三島氏が携わった、主な人工天体の地上観測

- ・はやぶさ 2 地球スイングバイ観測キャンペーン(2015 年 12 月)
- ・Astro-H の地上観測(2016 年 4 月)
- ・STARS-C の地上観測(2016 年)
- ・OSIRIS-REx の地球スイングバイ観測キャンペーン(2017 年 9 月)
- ・水星探査機「みお」地球フライバイ観測キャンペーン(2020 年 4 月)
- ・はやぶさ 2 地球帰還観測キャンペーン(2020 年 12 月)

以上のように、三島氏は倉敷市の学芸員として日常的に地域への天文普及の貢献を行っているだけでなく、地域の枠を超えて、全国的な波及効果をもたらせる取り組みを大変活発に行っていることから、2020 年度天文教育普及賞を授与する。